

専門家・関係機関と取り組む緑の再生

2004.4.20 研修係

1. ねらい

- ・防災教育の一環として「有珠山防災副読本」小学生版「火の山の響」のなかの、「春がまたやってきた」の内容について、実物を用いて理解を深める。
- ・有珠山周辺の豊かな自然を実感し、それを次世代に残すことの大切さを理解する。
- ・洞爺湖温泉の遊砂地事業に伴い、緑の再生という「街づくり」が近い将来求められるので、この地にあった自然環境の中で多様な緑を再生するという手法で、それに備える。
- ・以上を、本校の「防災教育」の特徴である「専門家・専門機関との連携」という恵まれた環境を生かしておこなう。

2. 連携する専門家と関係機関

- ・北海道工業大学環境デザイン学科 岡村俊邦 教授
※樽前山麓にて今回の企画同様の取り組みをおこなっている
- ・国土交通省北海道開発局「有珠山防災副読本」事務局関係者
- ・環境省西北北海道地区自然保護事務所
- ・北海道室蘭土木現業所洞爺出張所
- ・NPO 法人環境防災総合政策研究機構
宇井忠英 北海道大学名誉教授
- ・はまなす財団「有珠山防災副読本」事務局関係者

3. 実施内容

- (1) 日時 5月24日(月) 生活科・理科・総合
- (2) 内容
- ・岡村先生のお話
 - ・ハルニレやどろやなぎの種取りと種まき

※種が結実しているかどうかぎりぎりの時期。運動会との関係から、こうせざるを得ない。もしも種が取れなければ、種の取り方と苗の作り方を何らかの方法で学ぶ。そのうえで、何らかの取り組みをおこな

う。

※時数については、岡村先生や開発局の吉井（開発局
本局企画課長）さんと打ち合わせの上、後日提案

- ・放課後、全体研修にて岡村先生を囲む学習会。

（３）その後の取り組み

- ・苗床への水やり
(その間いずれかのタイミングで、遊砂地の将来利用構想
と緑づくりの範囲を、北海道・市民団体で話し合う機会
が予定される。その際に、本校の取り組みを紹介)
- ・２学期早々、岡村先生と吉井さんによる「緑はどうなっ
た」の授業。
- ・芽生えたハルニレの苗床と学校周辺の植物の観察、秋に
向けた種とり区域きの物色。
- ・来年度も同様の取り組み。
- ・再来年度以降、遊砂地で「生態学的混播法」による緑の
再生。さらに緑づくりの場を拡げていく。